

日蓮聖人降誕七五〇年の意義と 教団の伝道

——第四回教化研究会議の報告——（昭和四十六年九月二、三日）

挨拶

宗務総長 渡部 公允

皆様おはようございます。

この研究会議は上から作って下にしむけたものでなく、下から燃え上って来たという点からしまして、この会が宗門にとって充実した有意義なものと考えます。ことに参加している皆様方の熱意あふれるこの会議が、有意義であることは云うに及ばず、宗門にとりまして有難いことだと考えているものであります。従ってこの会を是非とも育てたいと思い、予算をくみ現宗研を通して検討して来たのであります。今年に入りまして、新しく総長に就任してさっ

そく教務部長に相談しました結果、この有意義なる成長する会を、立派に育てねばならないという事を思ったわけがあります。

行政的な面に対する宗内の世論の声は色々と聞くのであります。が、教化面で実際に布教にあたっている方々の、その地方における悩み、苦しみ、こうありたい、こうあらねばならない、一体これはどうすればいいんだ、という方々が一つの考案をもっている人がたくさんいる、その考案を吸収し、それを集め、その中から立派なものを作ること、これが宗教団体の仕事ではないかと。

行政的な面等是一个の法則にのっとって行くのであります。が、我々教団が活きた教団として行くならば、やはり活きた問題を吸収し、活きた教化をして行かなければならぬ、そうする事が使命を受けた活きた教団を将来に伸ばす

事であります。

どうも我々は机上の空論におわりやすく、観念の遊戲におわりやすい、こう云う事であつてはならない、それを深く痛感したものでありますから、どうかこの会が今後もっと充実し、内容も豊富にしたいものと考えておる次第であります。当初の起りを考え今日のあり方を考える時、机上の論であるとかの誹りを受けないように、あくまで實際にそくした切実な訴えであり、切実なる解決方法であり、妥当な方法を生み出す為に皆様方の総力を結集して頂き、皆様の熱情をここに傾けて、宗門の活きた教化方法がこの教研会議から生れてくる事を私は切望してやまないものであります。これをもって私の挨拶にかえさせて頂きます。

三井総務部長

皆様方には御多忙のなか、ことに先般台風によつて被害のあつた地域等の方々も、この度の教化研究会議に万難を排して御参集して頂きました御熱意に、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

宗門が今日おかれます立場というものについては、すでに皆様方が充分御認識している所であります。宗内には種々解決をせばれる問題がありますが、それ等は一応右におきまして、私は中樞におります立場からして、七百五十

年の慶讃に研修を行い、宗門が一つに統一し、このエネルギーを燃えつくさず、次の十年後に迎えます宗祖滅後七百年の時までには、この大きな力を宗門に定着させて、宗門百年の大計を作り上げねばならないものと考えてる次第であります。

また眼を外に転ずれば言葉に尽せない末法の悪世である事は、皆様のすでにご承知の事であります。また文明文化の進歩には深い恩恵と感謝を表わすものでありますが、これにもなつて精神文明の遅れ等に対しまして、これをだれが救うのかという問題を深く痛感してやみません。

丸山教務部長

渡部内局の発足と同時に、私も教務部長という宗門の中樞機構に入り、私なりに微力ではありますが全力を尽し努力しております。そこで私が感じました事は、布教師会長、修法師会長、声明師、青年会の全国結集会議等の長会議はしばしば聞かれておるのに対し、第一戦線に立つておられる住職方の、宗門はこうあらねばならないとお考えになつておられる壮年層の、会議集会等が少ないようであります。その線から教研会議がもたれたものと考えます。

それを延長しまして都市化の問題、両三年にわたつて農村における教化の問題等について、現宗研の方々が研究し

て路線を引いて下さった。

過日、大阪の雲雷寺における都市化の教化問題に出席して、こうした研修会こそ宗門にとって一番必要なものであり、宗門発展の基盤となるものであると考えるものであります。

従ってこの研修会において、内外の問題が少しずつ解決され、より充実した御討議が行なわれます事を、教務をつかさどるものとして願ってやみません。

現宗研所長 中 濃 教 篤

先ほど教務部長さんからご紹介して頂きました中濃でございます。前の所長でありました茂田井先生にしろ、室住先生にしろ、いわば宗学の大家であった関係上、私自身が宗学の専門家ではございませんので、いささか私自身、忸怩たるものを感じるのでありますが、翻って考えてみますと、宗学の専門でないもの、ことに私のように宗教史や宗教学関係に関連あるものが、こういう大役をおひき受けするの違った何らかの形でプラスになるのではないかと考え、恐る恐るおひき受けした様な次第であります。どうか今後ともよろしくご指導の程をお願い申し上げておく次第であります。

今日から第四回の教研会議が開かれるのでありますが、

北海道から南の九州地区に至るまで遠い所から御参集して頂き、熱心にこれから御討議して戴くのでありますが、御参集の皆様方には心から感謝の意を申し上げます。

ここで簡単に現代宗教研究所の成り立ちと役割について、いささか紹介させて頂きたいと思うわけであります。御存知のように現宗研が出来ましたのは、昭和三十九年の第十四回宗会に決定されて発足しました。その目的は現代における諸宗教の実態を調査し、本宗教学の現代的解明と時代に適応した信仰および布教大系の確立に寄与する、と云う事を目的に作られた訳であります。まだまだ充分なる成果は上げておりませんが、皆様方の御期待に添うよう努力を重ねてまいっておるのであります。まだあまり知られてないのでありますが、毎年毎年研究の成果をまとめて研究所の『所報』という形で本を出しております。この所報の存在というものはあまり宗門に知られておりませんので先だっても近畿地区の会議でお叱りを受けたのでありますが、そう云ういい本が出ているにもかかわらず、我々がもっとも知らないという事は一体どう云う事なのだ、もっと宣伝をしないとお叱りを受けた次第であります。この現宗研の所報その他の研究本は、あまり宗門内では知られておられないのですが、逆に宗門外で高く評価されて、各大学の宗教学、宗教社会学の先生方、または他宗の本願寺

系統の教団の研究者方からの所報が欲しいという注文が来るという事で、外側からはえらく評判がいいのですが、まだまだ宗内では充分活用されてない、また内容についてもお叱りを受けていないという事で、是非今後とも研究所の成果について御記憶いだいて、その内容などについて御不満あるいは間違いの御指摘を頂きたいと思います。

こうした研究の傍わら、四十三年からこうした教研会議を開いてまいりました。その目的は地方で東京の地区地区で、布教の第一線で活躍されている方々、またはコツコツと研究活動をされている方々、そういう方々があながい宗門内では把握されておられませんので、何処でどういう人が居るのかわかっていない事などから、そういう人達も是非お集り頂き、一緒に御討議して貴重な御意見を伺って、教団に反映していきたいという事などからして、第一回の教研会議が開かれた訳であります。その成果が思いの外よかった、勿論お集りの皆様が熱心に討議して下さった事などが基本であります、非常な成果を上げたという事で、二回三回と運ぶことになった訳であります。

しかも昨年は東北六県の宗務区教化研究会議というものが開かれまして、その地域にそくした討議、ご研究がなされたという御報告がこの昨年の教研会議にされたという事もあって、これまた違った意味で大きな成果が表われたという事もありました。

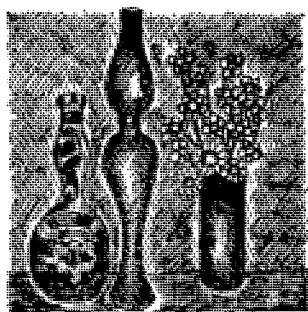
今年になりましたからは、つい七月に近畿地区での教化研究会議が開かれ、これもそれなりの成果を上げる事が出来たということで、そういう地域地域にそくした教研会議が開かれる事は、是非に大きな意義があるのではなからうかと考えているのであります。

現宗研としては年末に『日蓮聖人と現代』という七五〇を記念して出版したいと考え、今取りくんでおります。今回の研究会でも特に、「立正安国論」の現代的把握という問題を取り上げましたのも、一九七〇年代激動する社会において、我々が聖人のお弟子としてどう生きればよいのか、という意味においても一度立正安国論を読みなおしてみよう、そして現代との関連で安国論の御精神を私達なりに把握して行きたいという事でもあります、そうしたテーマも加えられたという点もあるのであります。

その他の議題についても果敢なく御討議いただきたいと思う訳であります。

最近私が気付きました事は、出版妨害問題によって例の創価学会の動きは変化をみせています。その中で非常に活発に打ち出されている問題は、学会員は一日二十分ずつ御書を学ぼうというスローガンが一つであります。それから教学を現代社会に適應して行こうとするスローガンが一点、これは勿論昨年五月の池田大作会長の発言を受けているのでありますが、非常に急速ないきおいで進められてい

る、特に今年八月の研習会で御書は安国論である、そして伝統の八月立正安国論を学ぼう、そして大いに動き語ろうというのが聖教新聞のスローガンに出ていたのであります、そういう形で安国論の現代的把握と、現代と立正安国論の精神との関係という問題を積極的に取り上げて行こうとする点を見ましても、我々は大いに考えなければならぬ問題であろうと思います。



第四回中央教化研究会議のテーマ

(1) 記念講演 「日蓮聖人降誕七五〇年の意義と教団の伝道」

(2) 討議テーマ

① 都市化現象とそれに対応する教化の問題点と教化活動の具体化

a 近畿における教化の諸問題

b 東北における教化の諸問題

c 地域社会の変動とそれに対応する教化活動の課題

② 教団の伝道と青年問題

a 教団における青少年教化の課題と方法

b 教団における青年運動の現状と伝道との関係

③ 現代の伝道における「立正安国」の意義と実践

a 「立正安国」の精神の現代的把握

b 「立正安国」の精神の教化活動における問題点とその具体化

c 社会伝道への姿勢と実践

——とくに公害問題の把握とそれに対応する教化の基本姿勢と方向——